

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000396		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	アミコ愛・あい・大領(1)		
所在地	大阪市住吉区大領5丁目5番24号		
自己評価作成日	令和2年4月10日	評価結果市町村受理日	令和2年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2792000396-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年6月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年5月に医療法人慈心会『愛・あい・大領』からアミコ株式会社『アミコ愛・あい・大領』に変わりましたが、現在も慈心会の『あびこ病院』と密な連携がとれているので、健康面について安心して暮らしていただけます。
庭に畑があり、芋・玉ねぎ・スナップエンドウなど、季節に合わせて収穫を行い、採りたてを食べていただくことができます。新型コロナウイルス対策で外出を控えている間も、庭に出てチューリップやパンジーを見たり、気に入った色のチューリップを摘んできてフロアに飾ったりして楽しんでいただきました。また、地域の行事に参加したり、定期的にボランティアさんに来ていただいたりといった地域との交流も大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、地域交流を大切にしており、運営推進会議等で地域の情報を得て餅つきや盆踊り等の行事に利用者や出掛けたり、事業所において地域の獅子舞の披露を楽しんだり、マジックや長唄、大正琴の演奏等のボランティアの来訪があり、近隣の方にも案内をしています。また、コロナウイルスの流行で近隣の方から手作りのマスク等の差し入れをもらうこともあり、地域との良好な関係を築いています。事業所の庭で野菜を栽培して利用者と一緒に収穫した野菜を使った食事を提供したり、たこ焼きパーティーやホットケーキ、善哉等のおやつなども一緒に作り、食事が楽しみものとなるよう工夫をしています。職員は申し送りや日々の業務の中で意見を出し合い協力しながら利用者1人ひとりの思いを大切にその人らしく暮らせるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「笑顔・親愛・憩い」を基本とし、共有している。昨年から、事業所の新しい目標「大きな愛で寄り添い、み護る」をフロアに掲げて実践を心がけている。	法人理念を基に管理者とリーダーが話し合い、事業所の目標を作成し玄関やフロア入り口等に掲示し意識付けをしています。その時々の利用者の思いを汲み取り、寄り添いながら笑顔で言葉を掛け支援することで理念の実践に繋げています。目標は2年毎に見直し変更していく予定です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神社の獅子舞の方に来ていただいたり、地域の餅つきや盆踊りなどの行事に参加させていただいたりして、地域密着を心がけている。地域でボランティア活動をされている方々の受け入れも行なっている。	運営推進会議で町会長や老人会会長から地域の情報を得て餅つきや盆踊り等に利用者と参加しています。地域の祭りには獅子舞に事業所の中まで入ってもらったり、大正琴の演奏や長唄、マジック等のボランティアの来訪もあり 地域との関わりが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からご相談があれば、その都度応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行ない、意見交換や情報収集をしている。事故報告なども行ない、いただいたご意見はサービスに活かすようにしている。	会議は2か月に1回利用者や町会長、老人クラブ会長、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、利用者の状況や活動報告、事故報告や対応策等を話し合い意見交換をしています。会議で得た誤薬を防止する方法についての意見を基に職員間で話し合い方法を変更する等、会議を運営やサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことを相談しながら、協力関係を築けるよう努力している。 特に区の生活支援課の担当者の方に連絡をとることが多く、ご協力を頂いている。	運営上の不明点等の確認で行政の窓口を訪問したり電話でも確認しています。行政から注意喚起の文章が届いた際には掲示して職員に周知し、研修の案内があれば必要に応じて参加するなど協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を行い、周知するようにはしているが、フロア全体に目が届きにくい建物の構造上、玄関は施錠をしている。	年1~2回事業所で身体拘束に関する研修を行い、不参加の職員へは資料を読んでもらい理解を深めています。家族の申し出や了解の下、安全上ベッド柵を使用したり、車椅子や靴に鈴を付ける利用者があり、必要性については毎月検討しています。玄関や2階と3階のフロア入り口は施錠していますが、外出希望の利用者にはテラスに出たり職員が付き添い散歩に出掛けて気分転換をしています。	

アミコ愛・あい・大領(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議で虐待防止について周知し、職員の言葉や行動が虐待にあたらないか、気になることがあれば話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や安心サポートを利用して利用者がいらっしゃるので、関係者と連携を取り、円滑に活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重説や契約書にそって説明し、ご理解いただいた上で契約している。契約後、改定時、解約時なども、疑問点などがあれば、その都度説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、利用者やご家族から面会時などに直接意見や相談をいただくことのほうが多い。いただいたご意見はすみやかに運営に反映させている。	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞き、希望する食事を提供する等出来ることは都度対応しています。家族の意見や要望は面会時や電話等で聞いており、家族からの要望で足のマッサージ機を使用したり、洗濯物の間違いについては名前や収納場所の確認を徹底する等、得られた意見や要望を運営やサービスに反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎朝の申し送りなどで職員の意見や提案を聞き、必要であれば個別での面談も行い運営に反映できるよう努めている。	会議や日々の申し送り等で職員の意見や提案を聞いています。食事介助時のマスクの付け方や使用方法を検討したり、利用者が食べやすいようにスプーンの大きさを工夫する等、職員間で話し合い日々の業務や支援に活かしています。また、管理者は随時職員に声を掛けて面談を行ない意見や要望を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回勤務状況などを報告し、給与に反映できるようにしている。また、代表者は職員の希望や意見を聞きながら適切な職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に研修を行ない、力量に応じて法人外の研修も受講している。また、職員は現場で働きながら、お互いの気づきや工夫の情報を共有し合い、それぞれの技術の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	住吉区グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。 同一法人内では他のグループホームと合同で、研修や会議を重ねている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の担当ケアマネさんより引き継いだ情報を職員間で共有し、本人とコミュニケーションをとりながら、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族様から話を詳しく聞き、安心して入居していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様との関係性や入居前の生活状況を踏まえて、何が必要かを見極め、利用者本位で生活ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除をしたり洗濯物をたたんだり、畑で採れた野菜の簡単な下ごしらえをしたり、できることはしていただくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には毎月報告書を送って様子を伝え、面会、外出、外泊がいつでもできるよう支援させていただいている。また、個人的に必要なものがあれば持ってきていただいたりして、ご家族様からの様々なご協力を得ることができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいたところの近所の方など、友人が来られたり、以前から通っていたかかりつけ医で受診するなど、馴染みの人との関係性を大切にしている。	親戚等の来訪時には居室へ案内し椅子やお茶を用意してゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。家族と自宅や墓参り等へ外出する際には身支度や薬等の事前の準備を支援したり、職員と馴染みの場所へ散歩した際に知人から声を掛けてもらうこともあります。また、年賀状や葉書を出す利用者へハガキの購入や投函を支援する等、出来る限り馴染みの関係が途切れないよう支援に努めています。	

アミコ愛・あい・大領(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルになりそうな時は、職員が間に入るなど、利用者同士の関係を把握しながらスムーズに交流できるよう支援している。また、ユニット間の交流も行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じグループ内の他施設に行かれた方が電話をくださったり、退居された方の家族様が、ボランティアとして訪問して下さったりして、関係性が続いている。退居後に亡くなられた方の家族様が、時折立ち寄って下さって、思い出話に花を咲かせて帰られることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活環境や習慣を把握し、生活記録や毎月のモニタリング、日々の会話などから、本人の意向を読み取るよう努めている。	入居時に自宅や施設等本人が暮らしている所へ訪問して面談し利用者や家族から生活歴や身体状況、思いや意向等を聞きアセスメントシートに記載し職員間で共有しています。入居後は利用者との日々の会話で思いや希望を聞き、困難な場合は様子や表情から汲み取ったり、家族にも相談しカンファレンスにて職員間で本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の情報も個人ファイルで確認できるようにして共有し、一人ひとりの思いを深く理解するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方をモニタリングなどで把握し、生活歴などから残存機能を活かした生活ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当を決めてモニタリングをしたり、看護師や医師の往診時にアドバイスをもらったりしているが、家族様にも意見を聞けるのは限られた方になる。	本人や家族の意向、アセスメントを基に作成した介護計画は6か月毎の見直しを基本としています。毎月担当者がモニタリングを行い、計画の達成状況を確認しており、計画の見直しに繋がっています。介護計画の他、半年毎に個別の援助計画についても細かく記載し、介護計画に反映させています。	計画の見直しの際には再アセスメントとサービス担当者会議を行い、家族の意向や必要に応じて医師、看護師の意見についても話し合いを持たれてはいかがでしょうか？
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録として日々の生活状況や気づいたこと、ケアの実践、結果を記録していて、職員は出勤時に必ず目を通すようにしている。		

アミコ愛・あい・大領(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望で、マッサージの先生を受け入れて来ていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ボランティアの方に来ていただいたりして、楽しみを増やすよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の要望があれば、馴染みのかかりつけ医への通院に対しても、送迎や付き添いの支援をしている。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するか事業所の協力医に変更するかを選択してもらい、現在は全利用者が協力医を選択し月1回の往診を受け、緊急時は24時間対応となっており同法人の看護師へ連絡し随時の往診を受ける事もあります。専門医への受診は職員の対応を基本とし、訪問歯科の週1回の口腔ケアの他、希望や必要に応じて訪問マッサージを受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に随時気づいたことを伝え、緊急の往診や受診に対応できるよう連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携が密に取れているので、入院対応も早く、退院時にも相談員や医師と情報を交換し、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、担当医が時期を見極め、早めに家族との話し合いの場をもうけている。	入居時に指針を基に重度化した際の事業所の対応について家族に説明し、意向を確認しています。重度化した際には医師から家族に説明があり職員と共に話し合い方針を共有し支援しています。また、看取り支援の際には家族から食事介助や頻回な面会等の協力を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防避難訓練の際に急変時や事故発生時の対応を伝え、職員に周知している。各階にマニュアルを掲出し、迅速な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火訓練は、年2回行なっているが、地域との協力体制はまだ築けていない。	年2回昼夜想定で行い、内1回は消防署立ち会いの下、通報や初期消火、利用者も参加し避難誘導等の訓練を行い、1回は自主訓練で水害を想定し利用者は1階から3階への避難を行っています。運営推進会議で訓練の案内をしたり、近隣へ声掛けをしています。また、飲料水やレトルト食品、缶入りパン、懐中電灯等を準備しています。	訓練を行う際は引き続き近隣への案内を行ったり、地域の防災訓練へ参加するなど地域との協力関係が築けるよう取り組まれてははいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し目上の方という敬いの気持ちを持って、日々のコミュニケーションなどを通し信頼関係を築くよう心がけて対応している。	職員は年1回資料を基に接遇マナー等についての知識を身に付けています。利用者に対し丁寧語を基本に呼称は苗字で言葉掛けをするように職員へ指導していますが、不適切な言葉掛けが見られた場合は都度注意したり会議等で話し合っています。希望に応じて入浴や排泄時の同性介助を行い、羞恥心にも配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、自己決定ができない利用者に対しては、選択肢をあげて自己決定を促すような声かけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われる日もあるが、できるだけ利用者の生活を優先し、希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服装にならないよう支援したり、訪問美容でカットやカラーなど、希望にそったヘアスタイルにしていたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じメニューを一緒に食べている。ホームの畑で採れた野菜の筋取りなど、下ごしらえを手伝っていただいたり、行事のおやつ等で、作る楽しみも味わっていただくように努めている。	献立と食材は業者から届き、利用者も下ごしらえ等の出来ることに携わりながら事業所で作り、職員も一緒に同じ食事を摂っています。庭で獲れた野菜が食卓に上がったたり、年数回は業者の献立を止めて仕出し弁当や寿司、フライドチキン等を提供することもあります。ホットケーキや善哉等一緒に作ったり、家族と外食に出掛ける等食事が楽しみなものになるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の仕入れ先で、栄養士さんがメニューを作成してくれているので、栄養バランスのとれた食事を提供できている。食事量と水分量は毎回記録し、飲み物も飽きがこないよう色々な物を提供するようにしている。		

アミコ愛・あい・大領(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、介助が必要でない方にも声かけをして、清潔を保つようにしている。希望者は訪問歯科を受診できるので、義歯の調整や衛生管理もしてもらっている。週3回義歯の洗浄も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに合った支援ができるよう工夫している。排泄の感覚がない方は、2、3時間おきにトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。	利用者個々に排泄記録を取り排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合わせて声かけやトイレへの案内をしています。個々に応じた排泄用品の種類や支援方法については日々職員間で検討し、おむつを使用して退院した方についても元の状態に戻るよう支援を行い改善した方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを摂取していただいたり、飲みやすいようにゼリー状のジュースを作ったりして、こまめに水分を補給していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事やレクリエーションなどと重ならないよう、一応曜日や時間を決めている。限られた範囲内でしか希望にそうことはできていないが、自分で曜日を決めている利用者もいる。	入浴は週2回を基本に日中の時間帯に入ってもらい、希望があれば回数を増やすことも可能であり、また夜間については都度検討しています。入浴拒否が見られた場合は声をかける職員の交代や日時を変えたり、フロアを変える等の工夫をすることで無理なく入浴してもらっています。好みのシャンプー等を持ち込む利用者もおり、ゆず湯などの季節湯をしたり、一人ずつ会話をしながらゆっくり入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も体調に応じて部屋で横になっていただいたりしている。夜間は毎時間巡視を行ない、安全確認をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録に個人の服薬表を綴じており、薬や副作用について情報を共有する様になっている。症状の変化があれば、すぐに管理者に報告し、看護師や医師の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の水やりや洗濯物の取り入れなど、できることはしていただくようにしている。季節の行事やボランティアさんによる楽器演奏、地域行事への参加などで、楽しみを持っていただけるよう努めている。		

アミコ愛・あい・大領(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時には散歩に出かけたりしている。本人の希望に合わせた場所へは、墓参りなどに家族と出かけられる方もいる。	日々の中で買い物や散歩に出掛けたり、地域の行事に参加することもあります。季節に応じて桜の花見や紅葉を観に出掛けています。テラスや駐車場に出て外気浴を楽しんだり、家族と外食に行く利用者もいる等、出来るだけ外出する機会を持てるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は家族様にお任せしている。現金を手元に置くことで安心される方は、ご家族様と相談の上、少ない金額を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の携帯で家族と連絡をとられている方もいるが、その他の方は、希望があれば施設の電話からスタッフがかけてご本人にかわったり、友人や家族側からかかってくる電話をおつなぎしている。年賀状を書かれる方には、ハガキの購入や投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明や室温は、快適に維持するよう随時調節している。ひな人形やクリスマスツリーを飾ったり、マスキングテープで壁に季節の図柄を描いたりして、四季を感じていただけるよう努めている。	玄関にクリスマスツリーや雛人形を飾ったり、利用者と職員で季節の作品を作って飾り付けを行い温かい雰囲気作りを心がけています。テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮して配置し、温湿度計を設置して利用者の体感にも留意しながら室温を調整しています。毎日換気や利用者も出来ることに携わりながら掃除を行い快適に過ごせる共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは気の合った利用者同士が一緒にテレビを見て、テーブル席では新聞を読んだり趣味の塗り絵をする人がいて、窓際の席では一人で音楽を聴いている人がいる、といった様子で、狭い空間ではあるがそれぞれの居場所はできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みのある物や家具などを持って来ていただき、以前の生活から違和感のないような環境で過ごせるように、家族様とも相談しながら配置も考えている。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうように伝え、テレビや棚、タンス、家族の写真、仏壇等を持ち込み、家族と職員が相談しながら配置しています。本や手芸用品、パソコン、オーディオ等を持参し楽しんでいる方もいます。毎日換気や利用者も出来ることに携わりなが清掃を行い、快適に過ごせる居室となるよう配慮しています。また希望や生活習慣により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部では、転倒などがないよう安全に生活できる配慮をし、部屋や靴箱がわかりにくい方に対しては、その方にとってわかりやすい目印をつけるなど工夫をしている。		